

平成 28 年度 小教研授業研究会 国語教育研究会

国語科書写

学習指導案

川崎市立小学校国語教育研究会 常任委員会 書写部 提案授業

2 年生

願いを込めて短冊に書こう
～「おれ」の方向に気をつけて～

授業者 小野寺 眸

4 年生

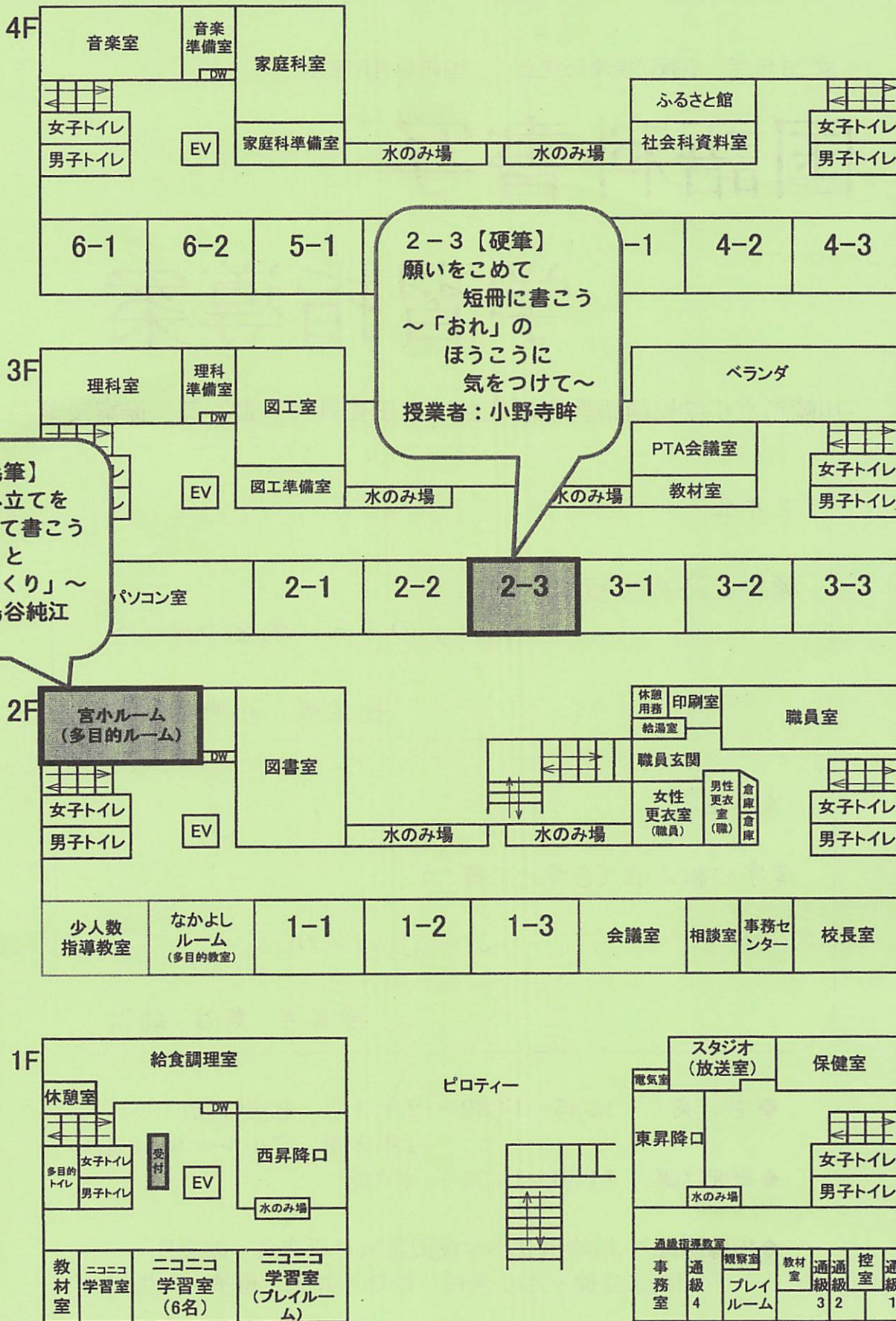
漢字の組み立てを考えて書こう
～「へん」と「つくり」～

授業者 島谷 純江

- ◆ 授 業 13:45～14:30・・・2 年 3 組 教室(3 階)
4 年 3 組 宮小ルーム (2 階)
- ◆ 研究協議 14:50～16:30・・・体育館
- ◆ 指導助言 川崎市立小学校国語教育研究会 副会長
川崎市立梶ヶ谷小学校 校長 井上 恵子 先生

平成 28 年 7 月 6 日(水) 会場：川崎市立宮前平小学校

平成28年度 第1回(7月6日)小教研 授業研究会【国語・書写】会場図 <宮前平小学校>



体育館
**控室
 研究
 協議会
 会場**

第2学年3組 国語科書写学習指導案

指導者 小野寺 眸

1. 日時・場所 平成28年7月6日(水) 13時45分～14時30分 2年3組教室
2. 単元名 願いをこめて短冊に書こう ～「おれ」のほうこうに気をつけて～
3. 単元目標 「おれ」の方向の違いに気をつけて書く。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(2) 書写に関する事項

イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
「おれ」の方向の違いに気をつけながら、短冊に丁寧に書こうとしている。	「おれ」の方向の違いに気をつけて書いている。

5. 単元について

(1) 児童の実態

きれいに書きたいという気持ちがあり、書写の時間や漢字の学習では、1文字ずつ丁寧に書こうとする姿勢が見られる。新出漢字の学習にも意欲的に取り組む児童が多い。しかし、2年生になり漢字の画数が増えたり字形が複雑になってきたりしたことで、字の間違いが増えたり、書き方が乱雑になったりする様子も見られる。また、筆圧が極端に強かったり、すぐに姿勢や筆記具の持ち方が崩れたりする児童もいる。

書写の学習では、点画の長短や方向、接し方や交わり方などの基本的な原則を理解することで、日常的に正しく整った文字を丁寧に書くことができるようにしたい。改めて正しい姿勢や筆記具の持ち方に気を付けることで、それが習慣化するように指導していきたい。そして、書写の時間に学んだことを日常の場面に生かし、意識しながら書こうとする姿勢を育てたいと考えている。

(2) 指導について

2年生になり、筆順の原則、点画の名称について学んだ。正しい筆順により字形が整うこと、漢字は点や画の組み合わせでできていることを理解してきた。本単元では、「おれ」の方向の違いについて学習し、それを生かして七夕の短冊づくりを行う。さまざまな「おれ」の方向について知り、気をつけて書くことで字形が整うことを理解する。そして、「おれ」のある漢字の画の方向を意識して練習することで、正しく美しい文字を書くことができることを目指したい。また、七夕の短冊作りという活動から、願いが叶う

ように、より丁寧に書こう、一字一字に思いを込めて書こう、という気持ちを持たせ、書く行為を大切に
する姿勢につなげていきたい。

文字を正しく書くために、姿勢や筆記具の持ち方についても継続して指導していく。正しい姿勢で書く
ために唱え歌を活用することや、筆記具の持ち方を映像で見せたり、補助したりすることで確認する。ま
た、子どもたちがお互いに見合う時間を作ることで、一人一人が意識できるようにする。

書いた短冊は自己評価したり、友だちと見比べて気づいたことを伝えたり、教えあったりするようにす
る。そして、自分の課題に気づき、もっと上手になりたい、という意欲につなげたい。

6. 指導計画 (全2時間)

時	評価	学習活動	指導上の留意点
① 本 時	<p>【言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「折れ」の方向の違いを理解している。 ・「折れ」の方向の違いに気をつけて書いている。 	<p>「おれ」のほうこうに気をつけて、たんざくに書こう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「おれ」にはさまざまな方向があること知る。 2. 「おれ」の方向の違いに気をつけて、書く練習をする。 3. 短冊に定型文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの特徴をつかむことで、方向の違いを意識させる。 ・「おれ」の方向の違いに気をつけて書かせる。 ・定型文を短冊に書き、友だちと相互評価する。
2	<p>【関】</p> <p>「折れ」の方向の違いに気をつけて書こうとしている。</p>	<p>「おれ」のほうこうに気をつけて、願い事を書こう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「おれ」の方向の違いに気をつけながら、短冊に願い事を書く。 2. 単元のふりかえりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手本をよく見て、「おれ」の方向に気をつけて書くように声をかける。 ・今回学習した漢字以外にも「おれ」の原理・原則が当てはまることを確認し、日常に生かすようにする。

7. 本時

(1) 目標

「おれ」の方向の違いに気をつけて、短冊に丁寧に書く。

(2) 展開

評価	学習活動	指導上の留意点
<p>「おれ」のほうこうに気をつけて、たんざくに書こう。</p>		
<p>【言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「折れ」の方向の違いを理解して書いている。 ・「折れ」の方向の違いに気をつけて書いている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「日」「名」「字」の「おれ」の形を比べ、さまざまな方向があることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・真下に折れる ・少し内側に折れる ・大きく内側に折れる 2. 「おれ」の方向に気をつけて、練習をする。 3. 短冊の定型文を書く。 書いた字を隣同士で見合って、良いところや気づいたことを伝え合う。 4. 本時の学習を振り返り、次回の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短冊に書いた願い事を提示し、「日」「名」「字」の漢字のどの部分を「おれ」と呼ぶかを確認する。 ・それぞれの漢字の「おれ」の方向に着目して比べさせる。 ・それぞれの特徴をつかむことで、方向の違いを意識させる。 ・空書きで筆順や「おれ」の方向の違いを確認してから練習させる。 ・鉛筆の持ち方、姿勢について確認する。 ・お手本をよく見て、「おれ」の方向に気をつけて書くように声をかける。 ・「おれ」の方向を正しく書くことができているかに着目して相互評価させる。 ・「おれ」の方向に気をつけて書くことができたか自己評価させる。 ・次回は短冊のお願いの部分を書くことを知らせる。

第4学年3組 国語科書写学習指導案

指導者 島谷 純江

1. 日時・場所 平成28年7月6日(水) 13時45分～14時30分 宮小ルーム
2. 単元名 漢字の組み立てを考えて書こう～「へん」と「つくり」～
3. 単元目標 左右の部分の組み立て方を理解して書く。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(2) 書写に関する事項

ア 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
いろいろな「へん」をもつ漢字について、「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけ、字形を整えて書こうとしている。	「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけ、文字全体のバランスを考えて書いている。

5. 単元について

(1) 児童の実態

新しい知識を得ること、試みることに心を躍らせ、毎週の書写学習を楽しみにしている。机に向かう姿からも、一点一点に意識を集中させて文字を書く時間を大切に思っていることが伝わってくる。

姿勢や筆の持ち方、用具の扱い方は、まだ定着しているとは言えない。用具の置き方をテレビに映し出したり、水書板や実物投影機を使って筆運びや穂先の動きを見せたりしている。また、座席を回り、手を添えたり、筆を動かしたりして個別に指導することも心がけている。3年生で学んだ筆運びや基本点画の書き方については、今後も継続的に指導する必要があると思われる。

子どもたちには、文字を書くコツをつかむとそれを試そうと進んで取り組む姿が見られる。自分が書いた文字から課題を探し意識も出てきた。文字を構成するきまりに気づかせ、文字を整えて書く意識を育て、主体的に書写学習に取り組ませていきたい。そして、自分や友だちの書く文字のよさを認め合い、書く行為や書いたものを大切にすることを育てたいと考えている。

(2) 指導について

4年生になり、筆順と字形、画の接し方について学んだ。筆順が文字を整えて書くことに大きく関わっていることがわかった。本単元では、左右の部分の組み立て方を学習する。「へん」になると、形や画の種類、方向が変化し、「つくり」と組み合わせると一つのまとまった文字になることを理解して書く。自分の書く文字に対するめあてをもち、何度も書くことで「へん」と「つくり」の組み立て方を身に付け

させたい。

① 意欲的に取り組むために

左右の組み立て方に注目させ、「土」と「つちへん」の書き方を比べる。整えて書くポイントをつかみ、それぞれの試し書きから課題を見つけさせる。個人のめあては手本に書き込むようにする。見通しをもつことで文字を整えて書く意欲につなげたい。子どもたちが筆を持ち、実際に書く時間を十分にとるようにする。子どもたちが考えながら学習を進め、意欲的に取り組む時間にしたい。

② めあてをもって書く

課題文字のどの部分に子どもたちの意識を向かわせるのかをはっきりさせる。まず、「へん」と「つくり」の広さを押さえ、「つちへん」になると「土」がどのように変化するのかを知る。文字全体のバランスを考え、「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書くようにする。授業の終末には、書いた文字を相互評価したり、1時間の変容を自己評価したりして学習のまとめを行う。

③ 基礎基本の定着を目指す

基礎基本の定着が、学習の質も量も保証することにつながると考える。姿勢、筆の持ち方、用具の扱い方等に関しては、映像で見せる、補助する、見合うなどして、今後も継続して指導していく。子どもたちの「できた」「わかった」という自信につながるよう指導していきたい。

④ 日常文字につなぐ

毛筆での学びを硬筆に生かすようにする。文字の原理・原則が、他の文字にも当てはまることを確かめる。書写や国語だけでなく、様々な場面で書く文章の中で生かせるようにしたい。文字意識を育てることを目指す。

6. 指導計画 (全3時間)

時	評価	学習活動	指導上の留意点
① 本時		毛筆 1. 「地」の試し書きをする。	・筆順を確認する。
	【言】 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけ、文字全体のバランスを考えて書いている。	「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、「地」を書こう。 2. 「へん」と「つくり」の組み立て方を確かめる。 3. めあてをもち、課題文字「地」を書く。 4. 学習をふりかえる。	・広さや画の方向、位置などが視覚的にとらえられるようにする。 ・自分のめあてを手本に書き込ませ、意識づける。 ・書いた文字の変容を確かめさせる。
2		毛筆 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、「地」を書こう。	
	【言】 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけ、文字全体のバランスを考えて書いている。	1. 前回書いた文字から、今日のめあてを決める。 2. めあてをもち、課題文字「地」を書く。 3. 学習をふりかえる。	・左右の組み立て方のヒントになるように、朱筆を入れておく。 ・「へん」と「つくり」の組み立て方、文字全体の整え方を意識させる。 ・互いに書いた文字を見合う時間をとる。
3		硬筆 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、漢字を書こう。	
	【関】 いろいろな「へん」をもつ漢字について、左右の部分の組み立て方について確かめ、字形を整えて書こうとしている。	1. 「かねへん」「ごんべん」「にんべん」の書き方について確かめる。 2. 左右の組み立て方に気をつけて、いろいろな「へん」をもつ漢字を書く。 3. 課題文字に添える「ことばカード」を書く。	・「つちへん」以外の「へん」にも原則が当てはまることに気づかせ、日常文字に生かすようにする。 ・カードには、「地球」「大地」など、「地」のつく言葉から連想した短文を書くようにする。

7. 本時

(1) 目標

「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、毛筆で「地」を書く。

(2) 展開

評価	学習活動	指導上の留意点
<p>【言】 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけ、文字全体のバランスを考えて書いている。</p>	<p>1. 「地」の試し書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆順を確認してから書くようにする。
	<div data-bbox="279 607 1137 674" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、「地」を書こう。</p> </div> <p>2. 「へん」と「つくり」の組み立て方を確かめる。 「つちへん」になると…</p> <div data-bbox="558 880 898 1171" style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・幅が狭くなる ・横画は右上がり ・三画目は「はらい」に ・縦画は右寄り ・右端がそろう </div> <p>3. めあてをもって半紙に練習する。</p> <p>4. 学習をふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「へん」と「つくり」の広さに注目させる。 ・「土」と「つちへん」を比べ、画の方向や位置を押さえる。 ・試し書きから課題を見つけ、手本に自分のめあてを書き込むことで意識づける。 ・かご字をとることで、「つちへん」のはらいが右上がりになることを実感させる。 ・水書板や実物投影機を使って範書し、字形や筆使いを確認する。 ・筆を持つ、姿勢を確認するなどして机間指導を行う。課題に対する評価の言葉かけをする。 ・試し書きと比べ、めあてに対する自己評価、相互評価をさせる。